

声を聴くため ● 水口奈津子

十階まで階段上りきる頃に朝の関節呼吸をはじむ

上層階の靴ピカ紳士もコンビニの割引弁当食べているなり

純白の便器の汚れの場所を知る泊りし人のからだの性別

覗きこみわが顔よりも焦点を手前に合わせ鏡を磨く

ダブルルームの歯ブラシふたつシェーバーはひとつ男女の設定として

飲みさしのビール、牛乳、赤ワイン、未完の夜をトイレへ流す

ユニットバスは白き空き箱林立のソープボトルのもらすため息

シングル二室一室未使用后姿はゲイカップルかチェックアウトす

ちはやぶる神の決めたる性別に宿泊カードは記入されおり

浮かぬよう沈まないよう同僚の噂話に片耳を貸す

斜めから見ればコップの底の輪の踊るテーブル雨あがりたり

間違えて三度わが名を呼ぶ人に三度答えて別人となる

予約席の取り皿五つ箸五膳箸先はみな左を向けり

素っ気ない人と言われているだろう「いいね！ポタン」を明日は押すべし

全室対応カードキーでも開かないドアがあります八階の奥

鳥獣戯画絵巻ならば楽しからんフットスローに兎の跳ねて

もういない人の気配を体臭を体温を消すわたしが消える

客室の最終チェックは靴を脱ぐ足裏から部屋の声を聴くため

配管室の熱もつパイプをくぐり抜けナイロンタオルの五十枚干す

わが影をロツカールームに折りたたみ錠を鎖したり鈴の音ならし